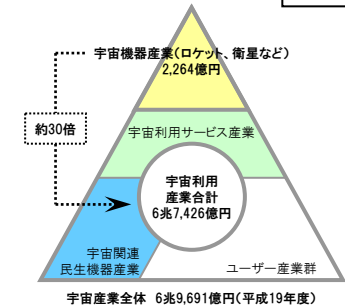


宇宙分野における重点施策について(案)【概要】 ～ 我が国の成長をもたらす戦略的宇宙政策の推進 ～

現状認識

- ◎ これまでの欧米に加え、中国、インドなどにおいて、宇宙利用活動が急速に拡充しており、**世界の宇宙利用産業は5年で倍増**し、まさに「**利用の時代**」を迎えている。
- ◎ 我が国の**宇宙産業全体**は、**約7兆円**規模。
そのうち、宇宙**機器産業**は**約2,300億円**だが、**競争力が十分ではなく、ほぼ官需が支えている状況(欧州では民需が4割。)**。
- ◎ **宇宙機器産業の国際競争力強化、宇宙利用産業の更なる拡大**により、我が国やアジアの経済成長に大きく寄与することが期待。
- ◎ **10年後に、宇宙産業規模を2倍の14～15兆円に。**
- ◎ 我が国として、他国に依存することなく、**自在な宇宙利用能力**(=「自律性」)を保持し続けることは必須。

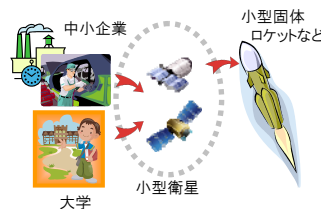


1. 世界に冠たるマーケット・コミュニティの創出 ～利用がドライブする成長の実現～

(1) ユーザーのニーズにきめ細かく応えるユーザー本位で競争力を備えた宇宙開発利用

① 小型衛星・小型ロケットによる新たな市場の開拓

- ・衛星などの小型化により、中小企業・大学が宇宙事業に参入。
- ・宇宙の裾野の拡大のためには、その参入を増やすことが重要。そのため、**小型衛星開発・利用支援／小型固体ロケットなどの開発／データ通信装置の開発／部品などの標準化**などを進め、競争力を強化。



② 衛星・センサーのシリーズ化の推進

- ・利用を促進するためには、データが**高頻度に継続的に低コスト**で提供されることが極めて重要。
- ・そのため、今後は、「**規模のメリット**」(コストダウン)、「**継続性**」を実現するよう、ユーザーのニーズを踏まえ、**衛星・センサーをシリーズ化**。



③ リアルタイムの地球観測衛星網の構築

- ・3時間に1回程度の撮像頻度を実現するため、「**だいち**」と「**ASARAO**」(合計4～8機)に加え、超小型衛星を活用し、**地球観測衛星網を整備・運用**。
- ・将来的には、宇宙新興国と協力し、リアルタイムの衛星画像提供市場を創出。

TPOに合わせたオーダーメイド情報の提供

④ 衛星データ利用促進プラットフォームの構築

- ・様々な衛星による情報・データなどを使いやすく提供する**基盤(プラットフォーム)**を構築し、利用者の利便性に貢献。
- ・データの規格化、運用方針などを含めたデータ・ポリシーを検討し、平成24年度の運用開始を目指す。

(2) 法制整備などを含めた宇宙利用環境整備

① 民間の宇宙活動のリスクを低減する法制などの整備

民間の宇宙活動を安全に行うための仕組みや、民間が負う損害賠償額の上限設定などにより、参入者のリスクを低減し、宇宙産業の発展を図るため、**宇宙活動に関する法制**などの整備を進める。

② 裾野(ステークホルダー)の拡大に向けた制度の活用

ステークホルダーの参入促進のため、PPP、産業投資、低利融資などの枠組みの活用、適切な規制の導入、**アンカーテナンシー**、**デュアル・ユース**などの新たな政策・考え方の検討、導入を進める。

③ 世界最先端の成果を目指したデータ利用促進施設・設備などの整備

2. 宇宙外交を通じた協力国の拡大と 我が国の宇宙利用の海外展開

(1) 宇宙外交の推進

- ・宇宙のアセットは、災害や環境問題への対応に貢献できるもの。
- ・宇宙分野の技術・成果・人材などは**外交資源**であり、**ソフトパワーの源泉**。
- ・宇宙新興国と協力し、**東アジア地域**での高頻度な**災害監視**など、相互補完的に施策を推進。

(2) 宇宙システムのパッケージによる 海外展開の推進

- ・宇宙新興国は、ロケットや衛星などを購入し、運用しているのが現状であり、**成長市場として期待**。
- ・我が国の宇宙産業の発展には海外の需要を取り込むことが必須。そのためには、
i) 啓発・普及活動
ii) キャパシティ・ビルディングのための技術協力
iii) 宇宙機器・サービスの提供・運営支援
といった「**3ステップ・アプローチ**」で、それらの国のニーズに応えていくことが重要。

- ・加えて、他のシステムの海外展開案件同様、以下の施策などを**パッケージとして総合的に実施**すべき。

- ・首脳・閣僚によるトップセールス
- ・JBICによる長期的なリスクマネーの供給
- ・日本貿易保険による保険制度の活用
- ・政府開発援助(ODA)などの適切な活用



3. イノベーションエンジンとしての 最先端科学・技術力の強化

(1) 自律性確保に必要な基盤技術の獲得・確保

- ・我が国として、**宇宙活動の自律性を保持し続けることは必要不可欠**。
- ・輸送系、衛星系(バス、センサー)など、長期的な視点に立った弛まない新たな技術開発を実施し、総合的な技術力を継続的に発展・向上。
- ・戦略的な部品の開発・確保の推進。



(2) グリーンイノベーションへの貢献「環境の番人」

- ・**グリーンイノベーション**の成果を**検証**してこそ。
- ・「いぶき」、「だいち」に加え、今後打上げ予定の気候変動観測衛星などによるデータで活用。
- ・**環境観測衛星網**の構築にイニシアティブを発揮。



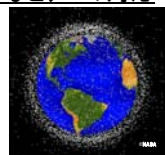
(3) 宇宙科学・技術(月・惑星探査や宇宙天文など)

- ・宇宙科学・技術は、**最先端科学・技術の基盤**の強化につながるもの。次世代への夢・希望、人材養成、国際的なプレゼンスに寄与。**将来に向けた投資**として、**世界トップレベルの成果**を達成している宇宙科学・技術を我が国の強みを活かして推進。
- ・中国・インドも取組みを進めている**月探査は、2020年頃のロボット探査などを目標として進める**方針で検討を深める。



(4) 国際的な対応が必要な課題(デブリなど)への対応

- ・デブリ対策は国際的な対応が求められている課題。分布状況把握、発生極少化、除去措置を目指した研究を推進。
- ・デブリなどの国際ルール作りにも主体的に参画していくことが重要。



周回軌道上のデブリ